

佐賀県保険医新聞

発行所
佐賀県保険医協会
佐賀市駅前中央1-9-45
(大瀬生命佐賀駅前ビル4F)
電話 0952(29)1933
FAX 0952(23)5218
HP <http://saga-doc.jp>
✉ hoken-i@star.saganet.ne.jp
購読料 1部 200円
送料込 年間2,400円
(会員の購読料は会費に含まれています)

【医科】新規開業医講習会

療担規則・カルテ記載 レセプト審査など解説

1月17日(金)佐賀市アバンセにて、当協会の中山利浩会長、猪口寛副会長、今村洋一常任理事を講師に医科新規開業医講習会を開催し、5人の医師、スタッフの参加がありました。以下参加者からの感想です。

これまで勤務医として働いている中で、日常診療に付けたりはほとんどにおいて保険診療を意

識しカルテ記載や診断名を付けたりはほとんどにおいて保険診療を意図して行っておりませんでした。以下参加者からの感想です。

講習会は少人数で行われ、終始和やかな雰囲気でした。講師の先生方からいただいた資料に沿って療担規則、カルテ記載のポイント、レセプト審査の注意点など、2時間ちよつとでは十分に説明しきれない内容を、しっかりと要点を押さえて説明していただきました。質疑応答の時間では、すでに承継されている先生方から具体的な質問が上がり、適宜その対応について講師の先生方から丁寧に説明がなされました。

講習会後の率直な感想は、正直「ちよつと理解できないぞ。」と思うことが多く、普段の日常診療とのギャップがあるなと感じました。まだまだ承継まで時間がある私にとつては、保険診療とはこういうものだとい分の中で理解することから始めなければならぬと痛感しました。そのためにはこのような講習会があればその都度参加させていきたいと思っております。

日々の診療での具体的な質問が挙がった



講習会後の率直な感想は、正直「ちよつと理解できないぞ。」と思うことが多く、普段の日常診療とのギャップがあるなと感じました。まだまだ承継まで時間がある私にとつては、保険診療とはこういうものだとい分の中で理解することから始めなければならぬと痛感しました。そのためにはこのような講習会があればその都度参加させていきたいと思っております。

保険医メールマガジン
佐賀県保険医協会では、会員の先生方を対象に電子メールを活用したメールマガジンを発行しています。ご希望の方はお名前・医療機関名を下記アドレスまでご連絡ください。不定期に医療情報等のメールマガジンをお送りします。
hoken-i@star.saganet.ne.jp

協会会員数	
医科	648人
歯科	323人
合計	971人
(1月31日現在)	

【医科】糖尿病研究会

糖尿病の克服を目指した 運動研究の新潮流

1月29日(水)、岩部真人先生(日本医科大学大学院教授)を講師に、糖尿病研究会「糖尿病の克服を目指した運動研究の新潮流」を、アバンセとオンライン配信を併用して開催しました。会場は9医療機関から9人、オンラインでは97医療機関から98人の参加がありました。以下参加者からの報告です。



岩部 真人 先生

従来糖尿病の運動療法の研究はなかなか厳密な意味での研究が難しかった印象であった。しかし今回の日本医科大学の岩部真人教授の講演は目

らウロコのような真に迫るものであった。

まず運動療法には急性効果と慢性効果があり、急性効果は運動することによってカロリーを消費し、血糖濃度を下げ、血糖のコントロールを改善するといふものだ。慢性効果は30分以上の有酸素運動という運動刺激により、ミトコンドリアを増やす刺激が出る。1〜2週間後にはミトコンドリアが増え、基礎代謝が向上することでエネルギーの消費が増大し、血糖のコントロールが改善するといふものである。

一般的ないわれているエネルギーの消費量の割合は基礎代謝が70%を占め、身体活動によるものは20%に過ぎない。基礎代謝を増やす意義は大きいと考えられる。肥満者は正常体重者と比較すると1日当たり2・5時間も座位時間が長いということである。

運動の有用性は大規模臨床研究で証明されているものの糖尿病での運動療法の実施率は低いといふ。世界的にも運動不足の傾向があり、世界の成人の4人に1人が運動不



活発な質疑応答が行われた

主な記事

- ・ 第2回 保団連 代議員会 …… 2面
- ・ 20国会行動 …… 2面
- ・ 第41回 福岡国税局との懇談・報告 …… 3面
- ・ 経営「一年収の壁」とは …… 5面
- ・ 労務管理「休日労働とは 休日の振替と代休」 …… 6面

曙
令和の米騒動
取戻しそうな気が配がない。農林水産省は、新米が安定するのでは、買いだめなどせず慌てないでとアナウンスしていたが、品薄状態は続き値段は上昇の一途をたどっている。政府が備蓄米放出を決定しても状況は変わらず、一年前の倍近くまで値上りしている。政府の甘い予測とは対照的に、大手デイスカウントストアでは昨年3月頃から先々の米不足を予測して、カリフォルニア米等新たな外国産米を大量に扱っていたそうである。現在一般家庭では、飲食店をはじめ一般家庭でもこの外国産米の認知度と消費量が増えているらしい。一般企業でできた予測がどうしたか、自戒の念をもって検証してほしい。▼視点を変えて稲作農家の立場からは、これまでの米価格が安過ぎたのだと、米価が上がることを望んでいる声が多く聞かれる。減反政策と長期にわたる低価格で利潤が少ない稲作から撤退が進んだという。しかしそれでもなぜ一部の農家は稲作を続けたのか?それは、自分たちが日本人の主食を提供しているというプライド、自負からだと思える▼われわれ日本の医療を守るといふ責任感で耐えてきたが、いつまで耐えられるだろうか。長期間ほぼほぼ据え置かれ、物価高騰を反映している。診療報酬、慢性的な人材不足、令和の米騒動の後、本当に令和の医療崩壊が足早に始まるかもしれない。(ペンネーム ふうけんばす)